

7月校長の想い

仕事の進め方

やがて梅雨も明けて、暑い夏がやってきますが神津島の方々におかれましては、お元気でお過ごしのことと存じます。

さて、仕事を進めていくことは、すごろくで駒を進めていくこととよく似ています。

すごろくでは駒が一つで、ゴールを目指してひたすらサイコロを振るわけですが、仕事の場合には、その駒が複数個あってすべてをゴールインさせなければいけません。

私の仕事は、人前で挨拶したり文章を書いたりすることや人をどのように活かすかということなので、発想が浮かばないとすぐに進めることができないことがあります。そのような時は、ただパソコンの前で、ぼーっと座って考えているのではなく、他の仕事を進めていきながら、どのように事を進めていくのが良いかという発想を常に考えています。

時には寝ている時に良い進め方を気付いたりすることがあります。そのような時には忘れないようにメモに書き留めておいて次の朝、その仕事から手掛けていくというように日々を過ごしています。

勉強でも同じことが言えるのではないのでしょうか。

計画を立てて、この1時間は数学と決めても1問で迷宮入りして何も解けずに時間が過ぎてしまっただけでは、効率の良い勉強方法ではありません。

問題に触れたときに、式の顔を見て、思いついた事から解き始めます。たとえば、三角方程式を解く時に方針をいくつか浮かべるのです。この問題は加法定理から因数分解とか和積の公式を使うとかというように方針を浮かべて、解き始めるのですが、行き詰ってしまいうまくいかない時には違う問題に向かうようにしています。他の問題を解きながらひらめくことがあるのです。

仕事も勉強もすべて同じ事が言えるのではないのでしょうか。

生徒の皆さんに何かの参考になれば幸いです。